

## ハヤリとシキタリ 結論と根拠

「結論」は意見である。その根拠は「事実」で構成されるべきである。その「事実」が「真」なのか「偽」なのかで「結論」の真偽が決まるからである。真偽のはっきりしない「意見」だけで根拠が構成されたとなると、その結論の真偽は、はっきりしなくなる。根拠は事実であるべきだが、完全にそうになっているとも言えないのが現実だ。

<p><b>結論</b> (意見)</p> <p>ハヤリとシキタリには共通点がある。</p>	<p><b>小結論</b> (意見)</p> <p>ハヤリとシキタリはどちらも実利性や合理性では説明のできない行動様式を正当化するという共通点がある。</p>	<p><b>小結論</b> (意見)</p> <p>ハヤリとシキタリはどちらも普遍性を欠いた、ローカルで特殊な文化という共通点がある。</p>
<p><b>根拠 b (ハヤリについて)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 流行は合理的な説明がつかないことが少なくない。</li> <li>・ 合理性を説明しようとする場合に出てくるのは「ハヤっているから。」のひと言である。</li> </ul>	<p><b>根拠 a (シキタリについて)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本人の多くは今でも正月に餅を食べるが、この行動を実利性で説明することは困難である。</li> <li>・ 正月に餅を食べることさら健康増進によいわけでも、この時期、用い外の食品が手に入らないわけでもない。従って、もし理由を問われれば、大方の人は「(日本の)シキタリだから。」と答えざるを得ない。</li> <li>・ 葬式の時に黒を着用することは伝統的ではないということ。</li> <li>・ 神前結婚は伝統はないこと。</li> </ul>	<p><b>根拠 a (シキタリについて)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年取り魚として大みそかに鮭を食べるのは東日本のシキタリであって、関西や中四国・九州はそうではない。</li> <li>・ 「日本のシキタリ」はロシア人にもアメリカ先住民にも無縁であるから、お盆に帰省しない。</li> <li>・ 仕事は真夏でもスーツにネクタイで、という事務系サラリーマンのシキタリは、農家には通用しない。</li> </ul> <p><b>根拠 b (ハヤリについて)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「大流行」といっても、十代後半から二十代前半の男女の一部の支持である。</li> <li>・ 「世界的流行」がつまり先進諸国の一定以上の経済力を持つ階層だけのものである。</li> <li>・ ハヤリは決して過去の人々とは共有されていない。</li> </ul>